

体験型海外教育実地研究 -第4学年レクリエーション「Bingo of Japanese!!」-
 所属 教育学研究科生涯活動教育学専攻音楽文化教育教育学専修 氏名 為重友馨

1 はじめに

私がアメリカの教育事情に関心を持ったのは2年前である。2年前アメリカでホームステイをした際、出会った子供たちがとてもしっかりしていたことと、街中や博物館などの様々な所で見かけた幼い子供たちの多くが、両親の2、3歩前を一人で歩いていた姿がとても印象的であった。日本では、両親に抱かれたり、手を繋いで歩く子供のほうが多いのではないかと思う。そこで、そのような自立心や主体性はどのような教育環境の中で形成されるのだろうかという思いをもち、アメリカでの教育のあり方に関心を持った。そして、今回の体験型海外教育実地研究では、アメリカの小学校や中学校を訪問できるというとても魅力的な企画が盛り込まれており、参加を希望した。

2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	履修等, 説明会 L304		
6/1	木	1330-1500 L304	第1回 事前研究	
6/29	木	1330-1500 L304	第2回 事前研究	
7/25	火	1800-1930 L304	指導案(英文)検討 7/28 講演会・7/29 学校間国際フォーラム 打ち合せ	
7/28	金	1330-1420 C527	講演会 米国小学校教育事情(TAG とグローバル教育)	
7/29	土	1300-1630	広島県立生涯学習センター GPSC 学校間国際交流フォーラム	
8/3	木	1330-1600 L304	第3回 事前研究 個別研究テーマ(授業実践研究)の交流と協議	
8/29	火	1330-1600 L304	第4回 事前研究 旅程確認・諸準備ほか	
9/3	日	広島-成田 0745-0925 NH-3128 成田-ワシントン 1110-1045 NH-2 ワシントン 1344-1448 ローリー UA-7183		米国ノースカロライナ州 Greenville City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL (877) 271-2616 Toll Free (877) 271-2616
9/4	月		East Carolina University (以下 ECU) 散策 事前打ち合せと準備	Greenville 同上
9/5	火		Wahl Coates E. S. 訪問 実地研究授業実施 2回 授業観察 ECU 訪問 J. Y. Joyner Library	Greenville 同上

9/5	火		Teaching Resource Center ECU 日本語クラスに参加	
9/6	水		Wahl Coates E. S. 訪問 授業観察 School Counselor, Mrs. Judy Frye さんへのインタビュー Principal, Mr. Sanderson さん へのインタビュー ECU 訪問 Dr. Joy Stapleton さんの Social Studies クラスに参加	Greenville 同上
9/7	木		Exploris M. S. 訪問 Exploris 博物館訪問	米国ノースカロライナ州 Raleigh Raleigh Marriott Crabtree Valley 4500 Marriott Dr., Raleigh, NC 27612 TEL (919)781-7000 FAX (919)781-3059
9/8	金	ローリー 1245-1350 ワシントン UA-7374	文化体験 (ワシントン市内観光)	Washington DC Beacon 1615 Rhode Island Ave, NW, Washington, DC 20036 TEL (202)296-2100 FAX (202)331-0227
9/9	土		文化体験 (ワシントン市内観光)	Washington DC 同上
9/10 9/11	日 月	ワシントン 1220-1520 成田 NH-1 成田 1725-1900 広島 NH-3129		機中泊
9/29	金	事後指導 発表会		

3 実地研究授業

3.1 単元等名

第4学年レクリエーション「Bingo of Japanese!!」

3.2 事前準備

アメリカの子供たちが日本の何について興味を持っているのだろうかと考えた時に、2年前のホームステイ先で出会ったアメリカの人たちが、家族の名称や簡単な挨拶などの日本語（日本語の響き）に興味を待ってくれたのを思い出し、覚えやすい簡単な日本語を紹介することにしました。そして、子供たちにとって身近な単語であれば、より子供たちの興味を惹くことができるであろうと考え、家族と学校に関する日本語を選び、日本文化に関する単語も加えて紹介することにした。また、子供たちがより親しめるように、それらの日本語を使ってビンゴゲームを行うことにした。

事前準備としては、それぞれの日本語に手書きのイラストを添えたプリント〔資料1・2〕を作成し、生徒がビンゴシート〔資料4〕を作成する際の貼り付け用の単語カード〔資料3〕も用意した。ゲームの景品には、箸、湯飲み、折り紙、和柄のハンカチなどを用意した。

3.3 学習指導案

Teacher's activities	Students' activities
Introduce myself	
Pass a sheet Read Japanese on a sheet and explain means of each Japanese word	Look a sheet and listen the explanation Follow me and read Japanese
Pass a sheet of Bingo and cards	Choose 9 cards they like from all cards and stick them to a sheet of Bingo with a glue
Explain how to play Bingo	
Start Bingo!! Choose one Japanese and read it	Listen the Japanese and put a tip on the word (or check it with a pen),if they have it on their sheet Raise their hand and say “Bingo!!” ,when their 3 tips (or checks) are lined “Bingo” students can get a gift

3.4 授業の実際

教室に入ると、生徒たちは可愛らしい笑顔と興味津々という眼差しで迎えてくれた。私が、プリントに書いてある日本語を説明しながら読んだ時には、生徒の方から自発的に私の後に続いて日本語を読む声が上がった。また、日本語の紹介をする時は、全部で22個の単語を用意していたので、生徒が飽きないように、時には近くの生徒に話しかけてコミュニケーションをとったり、その単語に関する私のエピソードを入れながら説明を進めていった。読みの練習をする時も、生徒たちは大きな声ではっきりと発音することができていた。ビンゴシートを作る過程において、全ての単語カードの中から各自好きな日本語カードを選ぶ時には、9枚のカードをととても真剣に選んでいた姿が印象的であった。ビンゴゲームを始めると、生徒の興奮も増し、私が提示する日本語を聞き取っては自分のシートの中で探し、比較的短時間のうちにチップを置いたり残念がったりする反応を示してくれた。そして、ゲームが白熱し、景品が足りなくなると、担任の先生のご好意で、景品にキャンディーを追加してゲームを続行した。

3.5 考察

生徒たちはとても素直で、新しいことであれば何にでも興味を示し、日本文化に対しても関心を持ってきていた。それぞれの単語の説明を聞くときや、ビンゴシートを作成する活動においても、常に熱心に取り組んでくれた。今回の授業の目的は、「アメリカの子供たちが日本語に親しむこと」としていたので、その目的は十分に達成されたと感じている。しかしながら、ビンゴゲームでは、私がある一つの単語を選んで生徒に提示する際に、そのイラストを示しながら提示したので、中には日本語を聞き取りながらゲームをしたのではなく、私が示すイラストと自分のビンゴシートの中のイラストを照らし合わせてゲームをしていた生徒もいたかもしれない。今回は30分間という短い時間内での授業となったので、分かりやすいようにイラストを活用し、日本語といってもひらがなではなくローマ字を読んだに過ぎないが、それでも生徒たちはしっかりと日本語を発音し、読みの練習やビンゴゲームを通して、日本語やその独特の響きを体感し親しむことができたのではないかと思う。

また、授業後には、景品の箸を両手に持ちながら「Thank you!!」とわざわざ言いに来てくれたり、授業後のランチタイムの時間にカフェテラスまで景品の湯飲みを持って行き、湯飲みで水を飲もうとしていた生徒もあり、用意していた景品もとても喜んでもらえたようである。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

渡米以前は、アメリカにおける教育のあり方に対して、集団よりも個人を重視し、規則で固めるのではなく、幅広く自由を認めた教育を行っているのではないかと思っていた。しかしながら、今回訪問した小学校では、予想以上に生徒たちの一日のスケジュールが密に組まれており、休憩時間は少なく、教室移動などで校内を移動する際には、一列になって黙って素早く移動しており、とても驚いた。また、担任教師は各学年で固定しているために、教師はその学年のプロフェッショナルであり、その上T.T制を取り入れることで、クラスの事務作業や生徒の世話の面において十分なサポートがなされ、常に無駄の無い充実した教育が行われているという印象を受けた。観察させてもらった英語と体育の授業では、「これはダメ」「あれはダメ」と教師が教え込むのではなく、ある程度の知識やルールを十分に理解させた後、「これはどう？」と教師が生徒に問いかけ、生徒がその事象について主体的に考え判断して発表するという機会が共通してみられていた。アメリカの子供たちの自立心や主体性はそのような教育方法からも育成されていくのではないかと考えられる。

4.2 自分自身についての変容

体験型教育実地研究を通して、自分の語学力が低いために、言いたいことや聞きたいことが上手く伝えられなかったり、相手の言葉を十分に理解することが出来ずにもどかしい思いをしたことが多々あったが、それでも少ない語彙で何とか授業をやり遂げたことは私にとって大きな自信となった。授業中に生徒たちと会話を交わしたことでコミュニケーションの楽しさに触れ、文法間違いや発音間違いを恐れず、まずは言葉に出して相手に伝えようとするのが国際交流の基本であり醍醐味であるということを実感した。

4.3 グローバルマインドに関する変容

国際交流や異文化体験をする際には、現地の人々と直接会話をして触れ合うことがいかに重要であるかを体感することができた。そしてその中で、相手の文化や考え方についての自国との相違点や共通点を見つけるという体験をすることは、ただ旅行で訪れて観光をするよりも、何倍もの新しい発見と感動を得ることができるのだと実感した。また、生徒の立場からすると、幼い時期から異文化に触れることは、間違ったイメージや偏見を防ぎ、グローバルマインドの育成においてもとても有効的であるように感じた。おそらくどこの国の子供たちも、自分の知らないことに対しては強い関心を示すと思われる。その多感な時期に多くの体験をすることは、その子の生涯において貴重な体験となり得るだろう。

5 おわりに

今回の体験型教育実地研究は、私にとって多くの発見がありたくさんのことを考えさせられた、実り多きとても貴重な体験となった。事前準備の段階から、自分の語学力と授業をした時の生徒の反応がとても心配であったが、実際に授業をした時は、生徒たちが本当に素直で、私の言うことを一生懸命聞いてくれ活動も熱心にしてきて、私自身緊張しながらも楽しみながらなんとか授業を終えることが出来た。今回は、数日での短時間の学校訪問となったので、できることならもう少し長い時間子供たちと過ごし、様々な発見を楽しんでみたいと思う。2年前の体験から、アメリカの子供たちの自立心や主体性に驚き、今回の体験型教育実地研究への参加に至ったのだが、学校生活の中でも日本の生徒との違いがありとても興味深かった。日本では、休憩時間や教室移動、トイレに行くときなど、必ずグループに分かれて行動を共にしていることが多いように思う。しかし、アメリカの子供たちは、机が近い友達と話すことはあっても常に同じ友人とグループを作って行動を共にする姿はあまり見られなかった。これまでは、アメリカの子供たちが特別であるかのように思っていたが、今回の体験を機に、実はグループを作って集団を好む文化はもしかしたら日本特有なのではないかと考えるようになった。

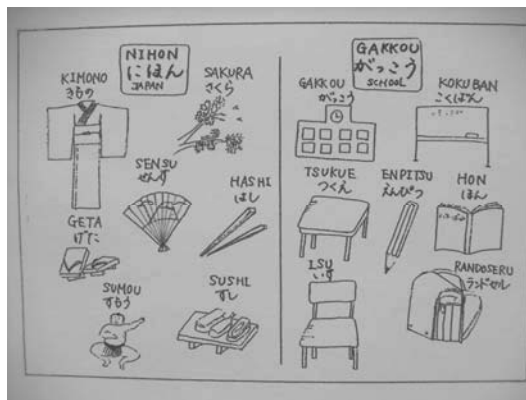
数時間の触れ合いではあったが、アメリカの先生方の教育方針、教育理念、学校経営、そして生徒たちの学校生活において、少しでも現状を垣間見ることができ、パワフルで暖かい先生方と無邪気で熱心な生徒たちに出会えたことは、忘れがたい貴重な体験となった。また同時に、市内観光などの文化体験を通して、アメリカの街を歩き、色々なことを見聞きし、食文化に触れたこと等もとても興味深い体験であった。

<参考資料>

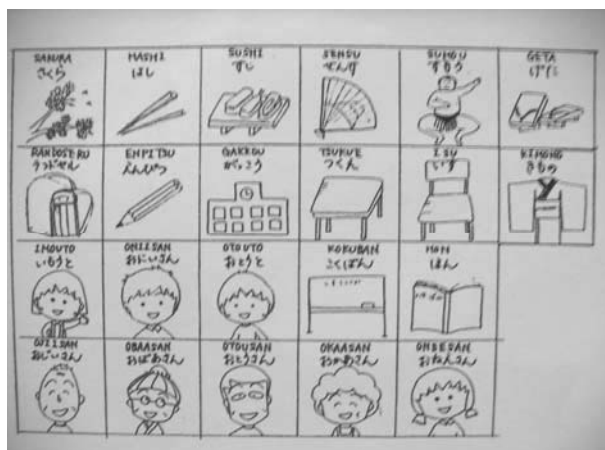
〔資料1〕 家族の紹介プリント



〔資料2〕 学校、日本文化の紹介プリント



〔資料3〕 貼り付け用の単語カード



〔資料4〕 ビンゴシート (台紙)

